

『第 7 期中央区自立支援協議会』

障害者(児)サービス部会  
報告書(案)

令和 5 (2023) 年 2 月

## 委員名簿

| 役 職  | 氏 名    | 所 属 団 体                               |
|------|--------|---------------------------------------|
| 部会長  | 田村 克彦  | レインボーハウス明石 施設長                        |
| 副部会長 | 水田 博子  | ポケット中央                                |
| 委員   | 前場 京子  | 中央区心身障害者・児福祉団体連合会 副会長                 |
| 委員   | 佐野 美恵  | 中央区民生・児童委員協議会<br>(令和3年11月末日にて任期終了)    |
| 委員   | 望月 シマエ | 中央区民生・児童委員協議会<br>(令和3年12月1日から部会委員に任命) |
| 委員   | 濱川 浩子  | 区民公募                                  |
| 委員   | 竹ヶ原 妙子 | 区民公募                                  |
| 委員   | 鈴木 佳   | 中央区障害者就労支援センター                        |
| 委員   | 島田 有三  | 中央区立福祉センター 基幹相談支援センター                 |
| 委員   | 佐藤 勝   | 区職員 (福祉センター支援係長)                      |

計9名

## 部会のテーマ・検討内容

### 1. 第7期障害者(児)サービス部会の検討課題について

「障害のある方の地域での生活を支援するためのサービス及び支援体制について」を本部会のテーマとし、第6期に引き続き、障害のある方の身近な困りごとを事例等で挙げながら、支援の充実に向けて協議、検討を行う。

また、今年度は昨年度の書面開催で提案された2つの議題と部会を進める中で提案された議題の主に以下3点の内容について議論を進め意見を出していただいた。①「地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について、対象者や収集する時期、内容、情報の取り扱いに関するガイドライン」②「感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響」③「事業所及びヘルパー不足で生じる問題点」

## 開催日時・議題

| 開催回 | 開催日時                                  | 開催場所             | 議題   |
|-----|---------------------------------------|------------------|--|
| 第4回 | 令和4年<br>6月30日(木)<br>15時00分<br>～17時00分 | 福祉センター<br>3階 会議室 | ① 中央区障害者(児)実態調査について<br>② 副部会長の選任<br>③ 令和3年度第3回障害者(児)サービス部会議事要旨について<br>④ 意見交換 |
| 第5回 | 令和4年<br>12月1日(木)<br>15時00分<br>～17時00分 | 福祉センター<br>2階 食堂  | ① 月島三丁目北地区再開発に伴うグループホーム等の整備について<br>② 令和4年度第4回部会の意見集約概要について<br>③ 意見交換         |
| 第6回 | 令和5年<br>1月19日(木)<br>15時00分<br>～17時00分 | 福祉センター<br>3階 会議室 | ① 中央区障害者(児)実態調査について<br>② 新部会委員の紹介<br>③ 令和4年度第5回部会の意見集約概要について<br>④ 意見交換       |

## [令和4年度部会中間報告]

### 第4回部会

障害者福祉課から中央区障害者計画・第7期中央区障害福祉計画・第3期中央区障害児福祉計画に係る実態調査の調査概要についての説明がなされた。

副部会長であったポケット中央の山崎委員が令和3年11月末日付で異動されたことに伴い、新たにポケット中央の水田氏が副部会長に選任された。

議題については、令和3年度第3回部会(書面開催)意見集約概要について説明を行い、意見を参考に検討を行っていくとともに、特に「地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について、対象者や収集する時期、内容、情報の取り扱いに関するガイドライン」及び「感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響」の2点に加え、本会議で提起された「事業所及びヘルパー不足で生じる問題点」の3点に焦点を当てて意見交換を行った。

- (1)「地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について、対象者や収集する時期、内容、情報の取り扱いに関するガイドライン」
  - ・個別避難計画の策定の義務や努力義務があり、災害支援名簿、要支援名簿等へ登録している方を中心に、避難する際の支援方法を考えていく必要がある。
  - ・基幹相談支援センターでは、当事者やその家族と面識がある関係者(相談事業所の相談員やケアマネ等)と避難訓練を実施し、課題を考える等関わりを増やし、地域で見守りをする体制を築けるような仕組みや内容について具体化する取組みを実施していきたい。また、民生委員だけではなく、町会、自治会、相談事業所の相談員、ケアマネ等の関係者と連携して今後の関りが期待できる面識のある人を徐々に増やすことができるよう基幹相談支援センターの行う催しも含めて展開させていきたい。
  - ・個人情報の取扱いが厳しくなっており、収集や利用についても対応の難しさを感じる。しかし、災害時等必要な時に必要な人が情報を得られる仕組みづくりが必要。例としては、高齢分野での見守りキーホルダー(おとしより相談支援センター配布)や他区ではヘルプカードに必要事項を記入できるようにしているところもあるため参考にしてはどうか。
  - ・障害の内容や程度、障害に対する考え方によってヘルプマーク所持に対する意識にも個人差がある。
  - ・個人情報に対する考え方が多様であり、知られたくない人へ緊急時にどう対応するか考える必要がある。
  - ・関係機関で連携する場合、個人情報の収集や取扱いについてガイドラインがあるとよりよい支援ができるのではないかと。
  - ・事業所と本人(家族を含む)が契約する際に、個人情報を他の関係機関と共有

する可能性があることを個人情報の説明に盛り込むことで、緊急時の対応に繋がっていくことができると思う。

(2)「感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響」

- ・ポケット中央の交流室では距離を取りながら過ごすことで、コミュニケーションがスムーズに取れないこともある一方で、利用者の絆の強化や自助の意識が育ってきた。
- ・新型コロナウイルス感染症により制限されていると捉えず、うまくいかないことや問題について自己点検することを意識し、日々改善、対応方法の検討を行っている。

(3)「事業所及びヘルパー不足で生じる問題点」

- ・知的障害の方は、日中活動、週末の余暇活動で家族の負担が増えている。
- ・移動支援等に関しては基本的に一対一でのサービスのため、希望があってもヘルパーを手配できず利用ができない。
- ・基幹相談支援センターでは、区内に限らず区外の状況についても情報収集を行い、目を向けられるような取組みを実施していきたい。
- ・本人と保護者の性別が異なる場合、外出時のトイレに付き添うことは周りの目もあり抵抗がある。ヘルパー利用が叶わないことが多いため、親の会で話し合い、「介護中」と書かれたプレートを利用することで精神的に付き添いがしやすくなった。

## 第5回部会

障害者福祉課から月島三丁目北地区再開発に伴うグループホーム等の整備についての説明及び質疑応答を行った。

第4回部会意見集約概要について説明を行い、前回に引き続き以下の3点に焦点を当てて意見交換を行った。

(1)「地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について、対象者や収集する時期、内容、情報の取り扱いに関するガイドライン」

- ・当事者と避難訓練を実施し、避難までの過程を確認することで課題を検討する場を設ける取り組みを行っているところもあると研修で知った。災害時に実際どう動き避難するのか話し合う場が必要。
- ・近隣住民の顔も知らないことが多いため、まず顔を知ることが必要。
- ・災害発生後の情報発信の方法も検討が必要（LINE等のSNSや災害用伝言板）。
- ・ポケット中央では防災に関するプログラム（緊急用トイレの使用方法や災害用バッグ等）を実施した。関心が高く申し込みは多かったが、当日の体調不良や、実際災害と向き合うことが怖くなった方もいて当日の参加者は少なかった。
- ・民生委員としてたすけあい名簿は見るが、実際に自宅へ行ってよいものか悩む。マンション等の集合住宅では自宅の玄関に「無事です」等のプレートを貼り、協

力の必要性を発信できる工夫をしているところもある。本人からサインを出してもらえるとよい。

- ・以前区から聴覚障害者向けにバンダナ式ヘルプカードや災害時マグネットシートが配布された。
- ・施設の入所時、緊急時の迎えの際に合言葉を決めていたが、災害時に迎えに来たのが合言葉を知らない親族（兄弟や叔父叔母等）や失念していることもあった。

## (2)「感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響」

- ・入所施設だが、感染症対策の観点から外へ出る活動が制限され、町の人との関わりを持つことができなくなってしまった。
- ・コロナの影響で家庭訪問等の見守りのような活動を控えていたが、単身生活をされている方で自分からSOSを発信することができない人もおり、今後リスクはあるが見守りのような活動も考えていかなければならないと思った。
- ・コロナに対しても以前よりは意識や対策が緩くなっている部分がある。
- ・感染症対策の結果、大人数で楽しむ機会が減ってしまったが、個のスペースを確保する等の対応をしたところ落ち着いて活動に参加することができた利用者の方もいたのは良かった。
- ・コロナ対策を積み重ねたことでできる活動の範囲も広がった。
- ・近年顔を合わせる機会が少なかったが、健康福祉まつりで再会し話をしたことで、実際に顔を見て話すことの大切さを再認識した。

## (3)事業所不足やヘルパー不足が原因で起こる問題について

- ・ヘルパーのなり手がいないのは賃金が低いから。
- ・ヘルパーに対して高圧的な態度を取る親や当事者がおり、サービスを使う側にも問題があることがある。
- ・当事者が“普通の生活”（朝昼晩食事をとり、夕食前後で入浴し、その後就寝する）を送るためには、ヘルパー自身は“普通の生活”を犠牲にしないといけないことがある。
- ・在籍しているヘルパーの居住地の近くでサービスに入れるよう工夫している事業所もある。
- ・初対面による不安を軽減するのに、ヘルパーと当事者のマッチングアプリのようなものがあるとよいのではないか。
- ・精神疾患のある方のヘルパー探しは、本人とヘルパーの相性や体調の不安定さによって利用が不規則になることから難しいことが多い。
- ・サービスを計画する立場として、管理者だけでなく、実際にサービスに入っているヘルパーとも話す機会が持てるとよい。

## 第6回部会

障害者福祉課から中央区障害者(児)実態調査についての説明がなされた。

第5回部会意見集約概要(焦点を当てている3点)について説明を行い、中央区

障害者(児)実態調査の結果を踏まえて意見交換を行った。

(1)「地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について、対象者や収集する時期、内容、情報の取り扱いに関するガイドライン」

○実態調査結果を基にした意見

- ・災害時に在宅避難を希望している人が多いとの結果が出たため、避難所等に避難しない方への支援について考える必要がある。
- ・避難についての選択肢を複数持ち、災害時でも対応できる可能性を広げておくことが必要。
- ・在宅避難の手引きの作成や在宅避難を想定した避難訓練の実施を行うことが必要。
- ・物資を届けるのか取りに来てもらうのか等の整理が必要。
- ・人的な面での対応として、自治会、町会との繋がりをつくっておくことが大切。
- ・社会福祉協議会では、災害時のボランティアセンターの立上げに際してどのような困り事があるかを把握し、被災者のニーズに応えられるよう考えていく必要がある。
- ・人手の確保が難しいことが予測されるが、居宅介護(高齢分野)のヘルパーの方は近場に住んでいる方が多いため、高齢分野と合わせた活用も有効であり検討に値する。

○その他

- ・ポケット中央では、防災を考えるプログラムを行い、生きるための安全な方法を学んでいる。また、発災してからの状況は刻々と変わっていくことや他の人の意見、防災に関する動画を観て災害時の行動や対応も学ぶようにしている。
- ・一般就労をしている方は電車通勤等も多いため、災害時に備え職場からGH等の居住場所まで事前に歩くことを想定した訓練等をしておくとよい。

(2)「感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響」

- ・感染症の終息の目途が立たない中で、以前は休日にはデパートに行く等していたが、現在は人が少ない公園に行く等、できる限り社会の変化にも対応しながら生活している。
- ・3年が経ち、人事異動等もあり、活動や行事に携わった経験のある職員が少なくなったため事業を再び実施する上での不安が大きくなっている。
- ・感染症対策として行ってきたことを続けていくことが大切であり、対策を講じながら一歩踏み出していくことも必要になってくる。
- ・福祉センターでは、完全に以前と同じようには行えない面もあるが、リスク回避するために様々な想定をし、少しずつ行事等を再開している。(バスバイクやオンラインでの体操、活動の取り入れ)
- ・利用者の方々も感染症対策の一環として自ら手洗いする等の取組みが身について

おり、良い面もある。

(3) 事業所不足やヘルパー不足が原因で起こる問題について

- ・ 高齢のヘルパーが介助をしている場面を目にすることが増え、実態調査の結果からも 50、60 代の介助者が多くなっている現状があり、改めてヘルパー人材の確保の難しさを感じる。
- ・ 求人の際に若い人にも興味や関心を持ってもらえるような工夫をしていく必要がある。
- ・ 介助の必要な時間帯等の実態を分析しマッチングを行うことで、効率的にヘルパーの手配をすることができないか。
- ・ ヘルパーが嫌な仕事ではなく楽しく、充実感のある仕事であることを示していければいい。
- ・ ヘルパーをする方が幸せでないと他人を幸せにはできない。
- ・ ヘルパーに対して高圧的な態度を取る当事者や保護者がいるため、サービスを使う側も意識していく必要がある。
- ・ 賃金を増やす等、待遇面で人材を集められるような施策が今後は求められる。
- ・ 人と人との繋がりが大切な仕事であるが時代の流れの中でリモートが主流になり、本質的に必要となる要件が希薄になりつつある状況となっており、切羽詰まっている問題であるが解決方法はなかなか見えない。

(4) 来年度に向けての検討課題について

- ・ 引き続き、「身近な困りごと」についての意見交換や必要なサービスについて検討していくとともに、第 7 期障害福祉計画・第 3 期障害児福祉計画策定に向けた意見や提案も行ってきたい。